



SDGs & Seig

Newsletter

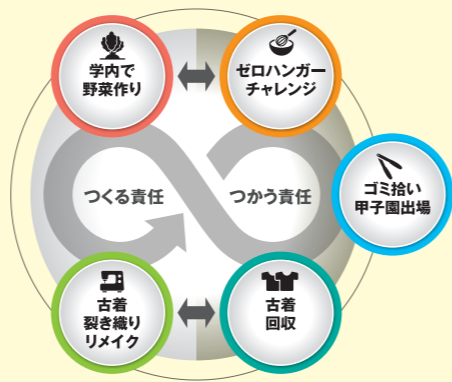
2022-2023



「好き」から始めるSDGs

～自分の興味・関心から社会課題解決を目指して～

設立3年目となるPetite Archeは、今年度は3つのプロジェクトを中心に活動を行いました。今までと比べ、活動を発信する場が増え、多くの方にPetite Archeの活動を通して、ファッションが抱える問題や食品ロス、飢餓などの社会問題についても知っていただくことができました。



古着プロジェクト

古着プロジェクトでは、Goal12「つくる責任 つかう責任」にフォーカスし、古着の魅力や再利用方法、古着がSDGsに繋がること等を発信する活動に取り組みました。古着に関する社会問題についても学ぶ必要があり、既に古着回収を行っている他大学からヒヤリングをし、SDGsに取り組む繊維専門商社も訪問しました。

学内で集めた古着を用いて、他大学を巻き込んで開催した古着ファッションショーでは、多くの人に会場だけでなく、オンラインでも参加いただけました。また、メディアにも取り上げられ、古着の抱える社会問題について発信することもできました。

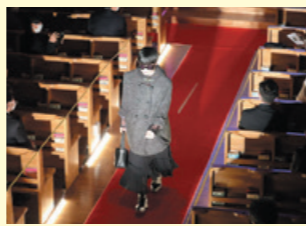
当日は回収した古着を展示したりサイクル会場を設け、気に入った衣服の持ち帰りを提案し寄付金箱を設置したところ、多くの方にご賛同いただきました。この寄付金は、なるべく多くのSDGsのゴールに貢献したいという思いから、教育の機会を十分に得られない子どもに対して教育支援を行う団体に寄付させて頂きました。



プロジェクト概要

●古着回収
企画：Petite Arche (学生団体)
サステナビリティ推進センター
期間：2022年7月下旬～10月28日(金)
回収場所：聖学院大学構内4か所に回収ボックスを設置
回収枚数：219枚

●古着ファッションショー/展示&古着リサイクル
企画：Petite Arche (学生団体)
関東学院大学石坂ゼミ
青山学院大学SANDS
サステナビリティ推進センター
協力：豊島株式会社
日時：2022年11月16日(水) 10:30～16:00
場所：聖学院大学
参加者数：会場 約220名、オンライン 約110名
古着リサイクル会場で集められた寄付金：4,264円
(公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレンへ寄付)



野菜づくりプロジェクト

学内で作った野菜を学食に提供することでGoal12「つくる責任 つかう責任」の達成を目指す野菜づくりプロジェクト。1年目となる今年度は、「農業を知る」という目標のもと、農業体験を月1回程度参加し、農家の担い手不足の原因などについて学ぶことができました。また、野菜の皮やヘタなどを捨てずに作る伝統料理の動画作成では、美味しく食品ロスの削減を体感することができました。



プロジェクト概要

・「いまここファーム」での農業体験(月1回程度)※
・学内での野菜づくり
・料理動画の作成
※「いまここファーム」は、生産者と消費者をつなぐために、「いまここ」を大切にしながら野菜栽培、養鶏、農福連携を行っている、埼玉県上尾市にある農園。



学生団体Petite Arche 2022年度の動き

1 古着プロジェクト



2 野菜づくりプロジェクト



3 学食寄付メニュープロジェクト



学食寄付メニュープロジェクト

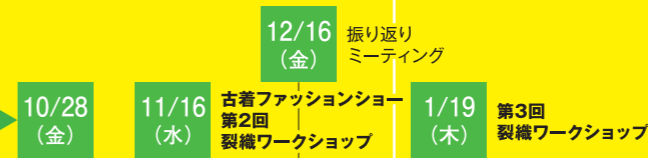


学食寄付メニュープロジェクトとは、2019年に開始された、学生食堂の売上金の一部を国連WFP (World Food Programme: 世界食糧計画) に寄付することで、世界の飢餓に苦しむ児童への学校給食支援を行うプロジェクト。3回目の開催となる今年度も、「好きなこと×SDGs」をモットーに多くの人にSDGsを知ってもらうきっかけ作りを行うPetite Archeと、聖学院大学4号館食堂で学食の提供を行う株式会社レバストが協力してメニュー開発を行いました。今年度は、「自分の食べたいものが寄付につながる」をテーマに掲げ、サステナビリティ推進センターとも連携しながら、メニュー考案の段階から学内アンケートを実施し、多くの方の意見を取り入れたメニューを提供することができました。

プロジェクト概要

期間：2022年12月5日(月)～12月23日(金)
場所：聖学院大学4号館1階 学生食堂
企画：Petite Arche (学生団体)
株式会社レバスト
サステナビリティ推進センター
寄付メニュー：週替わりデザート 250～350円(うち20円が寄付)
トーナツ チョコレート 200円/プレーン 150円(うち20円が寄付)
フライドポテト 200円(うち20円が寄付)
ブーティン 250円(うち20円が寄付)※
サービスセット 450円(うち30円が寄付)
日替わりプレート 500円(うち30円が寄付)
日替わりサラダ 200円(うち20円が寄付)
※フライドポテトに肉汁から作られたグレイビーソースとチーズをかけた料理。今回はBBQチーズ、マヨチーズの2種類で提供。

寄付金の総額 24,340円 (給食811食分の寄付)



5月22日(日)



SDGs実践事例学習交流会
上尾市の「SDGs実践事例学習交流会」にてSDGsの取り組み、対外的に発信する難しさや大切さについてPetite Archeの学生3名が発表しました。

6月5日(日)



ゴミ拾い甲子園
豪田ヨシオ部主催「第17回大学対校! ゴミ拾い甲子園」にPetite Archeの学生6名が参加。チームで環境問題について考えたとして、「よく振り返ったで賞」を受賞しました。

その他の活動



Petite Arche代表
栗田 実夕
政治経済学部
政治経済学科 3年



古着プロジェクトリーダー
小野 稜太
人文学部
日本文化学科 3年



野菜づくりプロジェクトリーダー
宗川 麻莉香
政治経済学部
政治経済学科 3年



大規模イベントの開催やエコプロの出展など、昨年度に比べ、団体として成長する機会を得るなど、多くの方にご協力していただきました。その反面、メンバー全員をまとめることの難しさを感じました。今年度はPetite Archeのモットーである「好きなこと×SDGs」の新しい企画に挑戦していきたいです。

古着プロジェクトのリーダーを1年間務めてみて、人生の中で一番成長した1年であったと思います。ただの大学生だった自分が他大学の学生や教職員と連絡を取ることや、チームの動かし方、リーダーとしてどのような人間であるべきかを考えることなど、普通では経験できないようなことに挑戦することができ、充実していたと感じています。

リーダーを経験してみて大変だったことは、メンバーをまとめて企画を進めることでした。農業に触れた経験がない人が多く、どんなことをしたいのか方向性を決めることが難しかったです。しかし、様々な人と円滑にコミュニケーションをすることも学び、やりがいを感じながら充実した1年間を過ごしました。

「エコプロ」でのブース出展

2022年12月7日～9日の3日間、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2022」にPetite Archeとして初めて出展しました。ブースではPetite Archeの3つのプロジェクト紹介だけでなく、聖学院大学で開催した古着ファッションショーの動画、実際にショーで受賞したコーディネート、裂織で作成したコースターなどの展示も行いました。今年は課外授業で来場した小中学生がたくさんインタビューをしに来てくれました。事前学習でブースを調べ、その中から私たちのブースに足を運んでくれたということで、私たちの活動がより多くの人にとって魅力的に映ったということを実感できました。



古着リメイクワークショップの開催

古着プロジェクトの一環として、今年度は古着リメイクワークショップを3回開催しました。この企画では、布を糸状に裂いて織り直す「裂織」という江戸時代から伝わる織物技法を用いて、学内で回収した古着をコースターにリメイクしました。

家にある着なくなった服でも工夫することによって再利用でき 가능성이広がること、身近なことから簡単にSDGsに貢献できることなどを、参加者と楽しく制作しながら伝えることができた貴重な機会となりました。

SDGsとは？

2015年9月、国連加盟国（193か国）は、より良き将来を実現するために、15年をかけて極度の貧困や不平等、不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」です。SDGsは、ミレニアム開発目標（MDGs）で十分に手を打てなかった課題に加え、「国連持続可能な開発会議（Rio+20）」（2012年）で議論された深刻化する環境課題など、17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことで「誰も取り残されない」世界を実現することをめざしています。

（出典：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンWEBサイト <http://www.ungcnj.org/>）

SDGsには、貧困や飢餓だけではなく、教育や性的マイノリティ、ワーク・ライフ・バランス、消滅可能性都市に関する問題など、日本でも身近な問題が取り上げられています。このようにSDGsは、直接的または間接的にすべての人々の生活に関係しています。

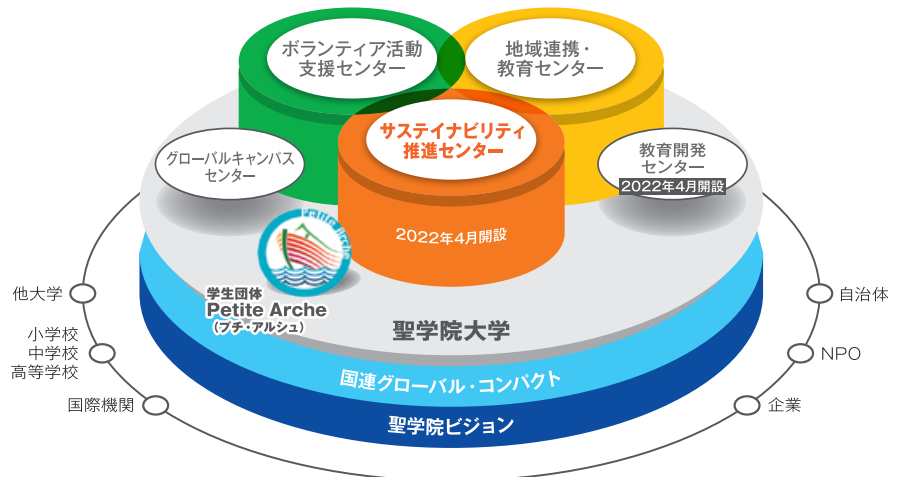


国連広報センターより引用

聖学院大学のSDGsの取り組み

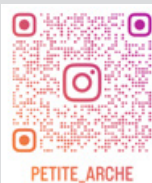
SDGsのD (Development) は、より良い社会に向けた「発展」が先進国にも必要なことを意味しています。SDGsの意義は、国や文化を越えた「共通言語」として、多様な人々やアイデアを結びつける点にあります。そして、「知の共同体」たる大学には、地域と世界をつなげる拠点として、地域の市民や企業、団体、行政などが連携・協働するためのプラットフォームとなり、グローバルな役割を果たすことが求められています。本学では、2019年より、学生・教職員が協働し、SDGs達成に向けた様々なプロジェクトを展開してきました。こうした取り組みのさらなる活性化のため、2022年にサステナビリティ推進センター (Seigakuin Sustainability Center: SSC) が開設されました。SSCは、学内外の諸団体・組織の連携・協働を促進し、「持続可能な開発のための教育 (ESD)」をいっそう充実させ、持続可能な社会と世界の形成をめざします。Goal12「つくる責任 つかう責任」に焦点をあてた学生主体の活動も大きく発展しています。

聖学院大学SDGsプラットフォーム



SDGs & Seig Newsletter 2022-2023

発行元／ 聖学院大学サステナビリティ推進センター
Petite Arche
発行日／ 2023年3月30日



Petite Arche

E-mail: petite_arche@seigakuin-univ.ac.jp

← Petite Archeの活動はこちらから

Love God and Serve His People
聖学院大学
一人を愛し、一人を育む。

お問い合わせ サステナビリティ推進センター (1号館1階1103教室)
TEL: 048-781-0079 月～金 (9:00～17:00)
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 E-mail: sustainability@seigakuin-univ.ac.jp
URL: <https://www.seigakuin.jp/about/ssc/>

